

皆様の身近に役立つ豆知識として「院内ニュース」を発行し、日常生活にお役立ていただければと考えております。また、テーマのリクエスト等がございましたら、スタッフまでお気軽にお声がけ下さい。

院長 入谷 栄一

アトピー性皮膚炎ってどんな病気？

アトピー性皮膚炎は、良くなったり悪くなったりを繰り返す、かゆみのある湿疹を特徴とする皮膚疾患です。多くの患者さんは皮膚が乾燥しやすい素因(ドライスキン)とアトピー素因(アレルギーを起こしやすい体質)をもっています。再発したり、なかなか治らない患者さんも多い病気ですが、症状をコントロールし、医師の指導を受けながら、根気よく治療していきましょう。当院には専門医が勤務しています。

アトピー性皮膚炎にみられる皮膚の状態

- ①かさかさとした皮膚の水分が少ない乾燥した状態
- ②フケのようなかさかさしたものが落ちる
- ③赤い腫れ
- ④ぶつぶつとした小さなドームの形の盛り上がり
- ⑤大きめのごつごつしたしこり。強いかゆみを伴う
- ⑥掻き壊した後にできるかさぶた
- ⑦みずぶくれ
- ⑧皮膚の浅い部分がはがれじくじくとただれた状態
- ⑨掻き壊しを繰り返して
- ごわごわと皮膚が厚く硬くなってしまった状態

アトピー性皮膚炎の原因

～体質～

1.アトピー素因

家族や自分にアレルギーを起こしやすい体質があれば、アトピー素因があるといえます。人の体には体の中に入った特定の異物を除く、免疫という仕組みがあります。この免疫が異常に強く起こることをアレルギー反応といえます。

2.ドライスキン

アトピー性皮膚炎の人の肌は、乾燥肌(ドライスキン)の状態にあることが分かっています。バリア機能が弱くなっているため、異物や微生物が侵入しやすく、刺激にも弱くなります。

～環境～

1.アレルギーに関するもの

2歳までの場合、因子として代表的なものは食物とダニですが、3歳以降は食物の影響は少なくなり、ダニや花粉の影響が大きくなります。どんなものにアレルギーを持っているかは、検査で調べられます。

2.アレルギー以外のもの

繰り返し掻くことによる刺激、汗の刺激、化学物質の刺激、ストレスなどの心理的要因などが、アトピー性皮膚炎の発症や悪化に関係します。

治療の種類

1.薬物療法

外用薬としてステロイドの塗り薬と、ステロイド以外の免疫抑制の塗り薬があります。

2.スキンケア

炎症がおさまった後も、2～3日おきに塗り薬を使ったり、炎症の再発を防ぐために、皮膚を清潔に保ち、入浴後には保湿薬を塗ります。

3.悪化要因の除去

アレルギーの原因となる食物を取り除いたり、ストレスの原因から遠ざかる治療を行います。

生活の中で心がける事

- 1.室内を清潔に保ち、適温・適湿の環境作り
- 2.規則正しい生活を送り、暴飲・暴食を避ける
- 3.刺激の少ない衣服を着る
- 4.爪は短く切り、掻きこわして皮膚を傷つけない
- 5.ストレス解消を行う



療養中の病気や健康状態などにより個人差があります。詳しくはお気軽にご相談下さい。